

BDS REPORT

Motorcycle
Marketing
Intelligence
Magazine

PLUS

●新連載 AJ理事長インタビュー

逢沢先生が座長のPTでは、火花を散らす、
白熱した議論になることもあります。

(千葉オートバイ事業協同組合 土居光夫理事長)

●特集

東京モーターショーから見える、
遠くの未来と近くの未来

●考現学

ユーザーと同じ目線で、フレンドリーに接する
店でありたい

(モーターサイクルストラテジー 前田勇介代表)



2017 DEC

12

Vol.400

理事長 INTERVIEW

オートバイ事業協同組合が考える、二輪業界の今後

千葉オートバイ事業協同組合・理事長

Vol.1

土居 光夫

有限会社エムディーモーターサイクルス社長

Profile

1948年東京生まれ。16歳で自動二輪免許取得。国立音楽大学ピアノ調律科卒業後、調律師に。実家のレコード楽器販売店を継いだ後、1983年にMDモーターサイクルスを起業。2016年11月国土交通大臣表彰受賞。趣味はツーリング、音楽鑑賞、ピアノ調律、旅行。69歳。

逢沢先生が座長のPTでは、火花を散らす、白熱した議論になることもあります。

・：インタビュー、快諾
頂きましてありがとうございます。
います。お話を伺いたいの
は、土居理事長が二輪業界
に入った経緯や、A J千葉
の理事長としての現在の取
り組みなどです。また連合
会では副会長として活躍さ
れていますので、その辺り
についてもお聞かせ頂けれ
ばと思います。土居理事長
はエムディーモーターサイ
クルスの経営者ですが、創
業者でもある。

土居「はい。私がいまから
34年前に創業しました。実
家は元々、レコード楽器販
売店で、店は清瀬（東京都）
にありました。将来的には
家業を継ぐため、国立音楽
大学に入学しました。卒業
後、最初はピアノの調律師
として仕事をしており、有
名な六本木のクラブも担当
していました。30歳で家業
を継いだのですが、駅前
の再開発で立ち退くことにな
り、それがキッカケで千葉

二輪の組合組織として、都道府県単位で活動しているオートバイ事業協同組合。二輪業界全体の秩序や倫理観を保ちつつ、業界の健全な発展と二輪車の普及、社会的地位の向上を目指す活動を行っている。そんな単組をけん引するのは、トップである理事長。そこで、各単組の理事長に、現在の組合活動やこの先の二輪業界の見通し、自店のことなどを聞く新コーナー「A J理事長インタビュー」の連載を開始する。第1回は千葉オートバイ事業協同組合の土居光夫理事長に登場頂いた。



ピアノの調律を行う土居理事長



毎月開催しているツーリングに参加した時の一コマ

に来ました。なぜ千葉なのかという、清瀬にいた頃、隣に学習院大学で紀子様は英語を教えているアメリカ人の教授が住んでいました、私と同じ年だったので、彼から英語を教えてもらうなど、プライベートでも交流がありました。ある時、彼が、千葉に土地を買った

んだけどこっちに来て家を建てないか、と誘ってきたんです。隣同士でいままでのように楽しもう、と。そんなことから、このエリア（茂原）に引っ越したので、35歳の頃ですね」

乗っていた。土居「趣味で高校生の頃からずっと乗っていたんです。当時はまだ二輪専門店が少なく、自転車販売店が二輪車を買っていた時代でした。オートバイの専売店があればいいのに、という思いは、おそらく多くの人が感じていたことだと思

ます。創業は1983年7月18日。国内需要がピークを迎えた時期でした。一番いい時代を見てきたと思います」

イクへと人気が移り変わって来るだろう、と思っっていましたからね。当時、店では年間6回ほどツーリングを開催していました。これはいまでも継続しています。開催回数は12回になりました。また、それとは別に年4回、他店と組み、走行会や展示会などを行っています」

・・・かなり以前からユーザーを遊ばすことを重視していたわけですね。

土居「結果的にはそうですね。設備投資面でも同じ考えを持っていました。私は以前から大型バイクの流通が増えたら、認証資格は間違いなく必要になるだろう、と見ていました。その当時は、認証なんて関係ない、という風潮が強かったので、これはまずいな、と思っていたのです。そこで開店後3年ほどで軽自動車の四輪の認証資格を取りました。その他、メーカーが



エムディーモーターサイクルス
開店時の貴重な1枚

勧める指導員資格もあるのですが、メーカーからオファーが来たら、必ず取得していました。つまり素直

二輪業界は、すでに組合の恩恵を受けているのです
 ・ ・ ・ 話は変わりますが、千葉オートバイ事業協同組合が組織されたのはいつ頃、土居「組合が設立されたの

に従ってきたわけですが、それが今になってプラスとなっています。例えばプロストア政策。メーカーが店に求める資格条件が、ウチはすべて揃っているのです。ここまでやってこられたのは、従業員が私を信じて着いてきてくれたおかげだと感謝しています」



は2003年11月。私は発足メンバーでした。設立にあたっては、組合を作り出す、と県内の販売店に声を掛けて回りました。それ以前も、様々なグループを立ち上げてきましたがどれも今は存在していません。以前、大村会長がこんなお話をされていました。「AJは」法人格のキチンとした政府公認の組合。だから、

今までの組織とは全く違うんです」とね。まさにその通りだと思えます。痛感したのは、何をやるにしても法律の改正なくしては、物事が進まない、ということ。すべては規制の下で行われる。オートバイ組合としての対応なら、進むべき道が開かれるのです」

・・・法規制について一例を挙げるとすれば。

土居「かつて、オートバイは高速道路の二人乗りが禁止されており、走行速度も上限は80キロに規制されて

いました。さらには、二輪車はなぜ端を走らなければならぬのか、という問題もありました。すべて法律で括られているのです」

・・・土居理事長の設立時の役割は。

土居「理事です。店の経営と並行して組合活動を行うようになりました。組合員の数は、わずか40店しかありませんでした。理事長になったのは2012年11月です。1期2年でいまちようど2期半です。丸5年が経過しましたね」

・・・設立当初は、色々と苦労もあったのでは。

土居「確かに最初は、組合員同士の関係性の部分で難しいところがありました。けれどもいまは、地道な活動が結実し、組合員数は設立時の倍の80店(2017年11月現在)となりました。これはどこの組合も同じだと思えますが、組合に入るどどのようなメリットがあ

るか、と必ず聞かれます。それに対し、キチンと説明させて頂くのですが、中には加入したら、明日から売り上げが上がる、という考えをお持ちの方もいる。でも、そうではありません。業界をよくしていくのは組合員一人ひとりなのです。これは、あまり意識できないことかもしれませんが、

実際、二輪業界関係者は組合の活動により恩恵を受けています。例えば教習所で大型免許が取れるようになったのもそうだし、高速道路での二輪車の二人乗り解禁もわかりです。これらは各単組、そしてそれを支える一人ひとりの組合員の力によるものなのです」

・・・そのことを知っているのか知らないのが重要です。ね。

土居「すでに組合加盟前に恩恵を受けているので、当たり前のように感じている方が多いのも事実です」



今後は経営指導や資金面でのアドバイスも視野に

・・・・AJでは自民党を中心とした各政党の議連と連携し問題解決に向け取り組んでいます。

土居「自民党、民進党がオートバイ議員連盟、公明党はオートバイ議員懇話会、維新の会にはオートバイ議員連盟があり、組織的に活動を行っています。現在、二輪の保有台数は1120万

台ほどだと思えますが、その約半数でみても600万近く、この票が我々のもとにある。このパワーが業界の力を支えていく原動力なのだと思います。議連の活動とは別ですが、いま、自民党のなかに『自民党政務調査会二輪車問題対策プロジェクトチーム』（通称PT）という組織があります。座

長は自民党オートバイ議員連盟の会長でもある逢沢一郎先生に努めて頂いています。この会議は毎月1回開催し、二輪に関する懸案事項について話し合い、何らかの回答を見出そうという場になっています」

・・・・PTでは、かなり突っ込んだ議論が行われていると聞きます。

土居「毎月1回は会議を行っています。確かに火

花を飛び散らすような白熱した会議になることもあります。自分の言葉でしゃべるので、緊迫感が全く違うんです。行政に對しても厳しい対応が多く、答弁内容に對しても、『論点がズレているじゃないか。我々が質問をしているのは、そういうことじゃない！』と平気で言いますからね。質問に對する回答も、『次回までに必ず回答するように』と求めます」

土居「AJでもう20年継続しているのが、バイクの日にけう関係省庁への表敬訪問です。環境省、警察庁、経済産業省、文部科学省を回りました。恒例化しているので、キャリア組の課長が揃って対応してくれます。翌日には全軽自協、自工会、日整連も訪問しました」

・・・・二輪業界は雇用面においても懸案があります。

土居「日整連さんが、どうしたらこの業界に人を呼べるか、という話を真剣にしていました。四輪業界ではディーラーと一般修理工場との賃金格差が大きな問題となっていて、それが人材を呼べない一因として考えられていそうです。これは二輪業界においても同様。社会保険未加入の販売店もありますからね。やはり従業員を安定雇用できる状況が整った段階で、初めてが自信を持って働いて貰



千葉大学附属中学校での授業の様子

花を飛び散らすような白熱した会議になることもあります。自分の言葉でしゃべるので、緊迫感が全く違うんです。行政に對しても厳しい対応が多く、答弁内容に對して

でも、『論点がズレているじゃないか。我々が質問をしているのは、そういうことじゃない！』と平気で言いますからね。質問に對する回答も、『次回までに必ず回答するように』と求めます」

・・・・参加メンバーは。

土居「AJからの出席者は会長と副会長です。オートバイ政治連盟（吉田純一会長）にもご出席頂いています。議員の先生は、座長の逢沢一郎先生をはじめ、司会を担当頂いている三原じゅん子先生、今村雅弘先生を中心としたオートバイ議員連盟のメンバーです。あとは自工会と日本自動車輸入組合、そして役人。たまに版社のトップ（社長）が参加されることもあります」

・・・・政治家、役人とのパイプが重要であることは、話を伺ってあらためて認識させられます。

土居「AJでもう20年継続しているのが、バイクの日にけう関係省庁への表敬訪問です。環境省、警察庁、経済産業省、文部科学省を回りました。恒例化しているので、キャリア組の課長が揃って対応してくれます。翌日には全軽自協、自工会、日整連も訪問しました」

・・・・二輪業界は雇用面においても懸案があります。

土居「日整連さんが、どうしたらこの業界に人を呼べるか、という話を真剣にしていました。四輪業界ではディーラーと一般修理工場との賃金格差が大きな問題となっていて、それが人材を呼べない一因として考えられていそうです。これは二輪業界においても同様。社会保険未加入の販売店もありますからね。やはり従業員を安定雇用できる状況が整った段階で、初めてが自信を持って働いて貰

うことができると思うので
す。先日、AJ常任理事会
の会議の時、人材不足を解
消するため、海外からの研
修生の受け入れに関する話
がありました。いいことだ
な、と思っていたのですが、
よく条件を見ると、二輪販
売店は対象外だったことが
分かったのです。なぜ、そ
んな話が出てきたのか全く
理解できませんでした。期
間は3年となっていました
が、それでは短かすぎます。
海外、特に東南アジアの
国々では、この先さらに二
輪車の普及が加速します。
日本の、二輪車に関する技
術を導入したくて仕方ない
ので、海外からは喜んでも
らえるはずなのです。それ
なのに二輪が外されてい
る。どうしても意味が理解
できませんでした」

・・・二輪が対象外とされ
た理由は何でしょうか。
土居「いま、それを確認し
ています。どういう経緯で二

輪が外されたのかを、詳しく
調べています。経済産業省と
日整連にもあたっている
ところですよ」

・・・今年に入り、学生を
対象に二輪の授業を行って
いると聞きました。

土居「はい。千葉大教育学
部付属中学校の先生が、ウ
チのお客さんなのですが、
その関係から学校で授業を
させて頂いています。最初
はAJとして開催しようと
考えたのですが、そこまで
大掛かりなものではないの
で、ウチ（エムディーモー
ターサイクルズ）で開催し
ています。1980年頃
は、技術科の教科書には
内燃機などに関する記載
が20ページほどありまし
た。けれども一昨年あた
りから掲載が0ページと
なり、代わりに入ったの
がバイオとーとでした。
こうした“変化”に気付い
たことが、授業を始めた
キッカケでした」

・・・授業は何回開催した
のでしょうか。

土居「計13回です。ホンダ
さんがどこからかスクールの
情報入手して取材に來
てくれました。社内ニュー
スで流していましたね」

・・・最後に今後、AJ千
葉をどの方向に導いてい
こうと考えていますか。

土居「この先、各メーカー
の政策により、販売店が二
分していくと思います。こ
ういう販売店さんを、どの
ように手助けするかが一番
の問題です。経営に関して
も、おこがましいかもしれ
ませんが、指導も必要な
かな、と。そうした支援に
加え、資金面では全国中小
企業中央会の補助金を活用
するなど、方法はある。メー
カーと手が切れてしまうと
ころもあるかもしれません
が、そうであっても、組合に
入会しておいて良かった、
と感じて貰えるような組織
にしたいです」

